

連続講演会 <中東のいま>



写真は、聖地エルサレムで、左上の金色のドームはイスラムの聖地「岩のドーム」。右下の人が集まっている前があるのがユダヤ教の聖地「嘆きの壁」（川上泰徳氏撮影）

第1回 川上泰徳氏は「サブラ・シャティーラの虐殺」で知られるベイルートのシャティーラ難民キャンプを取材し、この3年間で、70代、80代の難民第1世代から現在の若者まで150人のインタビューをしています。来春『シャティーラの記憶』（仮題）として刊行予定。人々の具体的な証言、写真や動画で、パレスチナ人の生の歴史をたどります。

第2回 2018年はイスラエルのアメリカ大使館のエルサレムへの移転や、アメリカのパレスチナ難民支援中止で、パレスチナ問題は大きな危機に直面しました。国連加盟国はどう対応したか、これからどうなるのか。来日したUNRWA事務局長のインタビューとともに、エルサレム問題を含むパレスチナ問題と、中東、さらに日本の関係まで、広い視野からのお話を伺います。

第1回 2019年3月16日（土）14：00～16：00

<パレスチナ難民70年の記憶>

第2回 2019年3月23日（土）14：00～16：00

<パレスチナ難民問題の現状と今後>

講師：川上泰徳氏（中東ジャーナリスト、元朝日新聞記者）（詳細裏面）

会場：練馬区立光が丘図書館2階視聴覚室（アクセス裏面）

会費：500円/回（当日受付で）

申込：各回60名（申込み順）氏名、希望回を利用者の会へ。

電話 090-1656-2404 メール riyosha.hikarilib@gmail.com

主催：光が丘図書館利用者の会

協力：練馬区立光が丘図書館

講師のご紹介： 川上 泰徳（かわかみ・やすのり）氏

1956年生まれ、朝日新聞でカイロ、エルサレム、バグダッドなどに特派員として駐在し、パレスチナ紛争、イラク戦争、「アラブの春」などを取材。中東アフリカ総局長、編集委員、論説委員などを歴任。中東報道で2002年度の「ボーン・上田記念国際記者賞」受賞。2015年よりフリーランスの中東ジャーナリスト。

▶ ブログ 中東ウォッチ <http://mideast-watch.blog.jp/>

以下にコラム連載中：

ニューズウィーク日本版 <http://www.newsweekjapan.jp/kawakami/>
集英社新書 WEB <http://shinsho.shueisha.co.jp/column/middleeast/>

著書・共著書一覧

『「イスラム国」はテロの元凶ではない』	集英社新書	2016.12
『パレスチナを知るための60章』	明石書店	2016.4
『中東の現場を歩く』	合同出版	2015.12
『ジャーナリストはなぜ「戦場」に行くのか』	集英社	2015.12
『イスラムを生きる人びと』	岩波書店	2012.3
『現地発エジプト革命』	岩波ブックレット	2011.5
『イラク零年-朝日新聞特派員の報告』	朝日新聞社	2005.9

● 光が丘図書館（〒179-0072 練馬区光が丘4-1-5）へのアクセス

都営大江戸線「光が丘」駅A3出口から徒歩8分

みどりバス（保谷ルート・氷川台ルート・北町ルート）練馬光が丘病院下車徒歩1分

● 光が丘図書館利用者の会 ご紹介

光が丘図書館建設懇談会の区民委員を中心に発足したボランティア団体。1995年5月20日設立。地域の情報拠点である図書館の運営に利用者の声を反映させるため、講座、講演会、館内企画展示などの活動を行っています。加入ご希望の方は、利用者の会までご一報ください。

2017年12月より、平成29年度まちづくり活動助成事業（みどりのまちづくりセンター）の助成を受け、図書館の外へも活動の幅を広げていながら、『図書館でつながる、図書館からひろがる』、本でつながる街づくりを目指していきます。今回の講演会も、そのひとつとして開催します。